

## ⚠ 注意

- リリーフ圧力もしくは、定格圧力を超えて使用しないで下さい。モーター焼損の恐れがあります。
- 電源には必ずブレーカーを組み込んで下さい。モーター焼損の恐れがあります。
- 電源コードの上に重いものを絶対のせないで下さい。火災や感電の原因になります。
- 静電防止および感電防止のために、端子箱または、モーターベースにあるアース端子にアース線を接続して下さい。

# CXシリーズの取扱い

## ① 回転方向

- このモーターポンプの回転方向は、すべてファン側から見て左回転です。逆回転させると液漏れの原因となります。回転方向は、モーターファンの回転方向で確認できます。

## ② 使用液

- 正確な濃度管理を行なった水溶性切削液をご使用下さい。不水溶性切削油、一般潤滑油のご使用も可能です。

## ③ 使用液温

- 連続運転では、15～50°Cでご使用下さい。

## ④ 吸入条件

- 吸入圧力は、ポンプの吸込みポートで-0.02MPa以内になるようにして下さい。
- 吸入側には、100～150メッシュのサクシオンフィルタをご使用下さい。
- クーラント装置の場合、切粉、バクテリア、スラッジなどによるサクシオンフィルタの目づまりが吸入抵抗を増大し、キャビテーションの発生となります。キャビテーションは騒音、振動、部品の破損等をひきおこし、ポンプ寿命が低下します。定期的なフィルタの洗浄を推奨します。

## ⑤ 配管

- 吸入ラインの配管は、吸入圧力を越えることなく、できるだけ太く、短かく、まっすぐにして下さい。
- 吸入側の気密性に注意して下さい。空気の混入は、騒音、振動を発生させます。
- 鋼管で配管を行なう場合、ポンプに無理な力が加わらないようにして下さい。

## ⑥ 据付

- モーター取付面が下になる様に取付けて下さい。安全の為に、ポンプ下側に液逃げ口を設けています。

## ⑦ 初期運転

- ポンプ吐出側を無負荷にしてインチング操作(ポンプ間欠運転)を行ない、ポンプ内部および吸入配管内のエアを抜いて下さい。

## ⑧ リリーフバルブ

- 標準仕様のモーターポンプのリリーフ圧力は通常、定格圧力に設定されています。定格圧力以内での調整は可能です。
- 圧力調整は、ロックナットをゆるめた後圧力調整ねじを左に回すと圧力が降下します。調整する時は、必ず圧力計をみながら行なってください。調整後は、ロックナットを締めて下さい。
- リリーフバルブは、内部ドレン形と外部ドレン形の2種類があります。リリーフバルブの作動頻度が多い時は、外部ドレン形を使用し、さらにリリーフ設定圧力は定格圧力又はそれ以下に調整してください。

